

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第2講 本を読む (1): 速読

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 読書記録と速読の方法

1 本を読むモード

教科書 pp. 83-90

- 速読 (今日やること)
- 精読
- 批判
- 利用

2 課題

各自で探してきた本について、次のことを議論する

- 主要なキーワードとその意味
- 章や節がどのような組み立てになっているか
- 自分にとって参考になること (あるいは面白い発見) はどれか。その根拠となるのは何か

3 書誌情報

- 書誌情報をどこから採るか (奥付の利用)
- シリーズ・叢書など
- 版
- 目次・索引・序文など
- 初出・履歴の情報

文献の情報 (書誌情報: bibliography) をどう書くかについては、分野ごとに慣習が違う。日本語教育学研究室では、本の書誌情報はつぎのように書く。

著者 (出版年) 『書名』 出版社.

シリーズ名や版表示などをつける必要がある場合は、書名の閉じかっこ』のあとに () でくくって示す。

4 読書メモと情報の整理

- 読みながらの記録 (付箋・書き込みなど)
- 目次への書き込み
- 速読カード (教科書 p. 104) などへの記録と保存

5 速読の場合に読みとるべきこと

- 部や章の構成と、各章の役割
- キーワード
- 問いと答えのセット
- 根拠の基礎となる理論やデータ

6 キーワードを抜き出す

教科書 p. 86

- その本のなかで重要そうな単語や句
- 意味と用例
- 専門用語か; どの分野で使うことばか
- 類似語との異同
- ほかのキーワードとの関連

章ごとに3つ以上抜き出してみる

7 段落

学術的な文章では、段落 (paragraph) が基本的な構成要素となる

- 通常、ひとつの段落にひとつの主題 →キーセンテンスを見つける (最初にあることが多い)
- 段落をいくつか組み立ててひとつのセクションができる →セクション内で最重要の段落はどれか?
- 段落がうまく構成されているとは限らないので注意

8 読書から読みとること

- その本の主張したいこと
- 自分の研究にとって役に立つこと

研究が進むにしたがって、後者の比重が大きくなる。

9 次回の予定：図書館見学

- 10:30 に図書館入口に直接集合
- 学生証（図書館入館証）をもってくること

見学内容と目的：

- (1) 2号館の経済統計コーナーの官庁統計等の配置を理解する
- (2) 2号館の和雑誌の配置を理解する
- (3) 書庫の使いかたについて講義と見学
- (4) 書庫で分類番号から関心分野を探し、書棚から自分の関心のあった図書を選ぶ
- (5) 図書貸出
- (6) 解散

[課題] 自分の興味のある本を1冊以上探す。探した本について、カウンターで借り出しの手続き

- 図書館内の資料所在と配列を把握する
- 書庫内の本の分類はどのようになっているか?
- 分類記号・請求記号の仕組み
- 静かに、節度を守って探索すること

東北大学附属図書館では、学部生が本館書庫を利用するには、「書庫利用ガイダンス」を受ける必要がある。今回の授業はこのガイダンスを兼ねているので、受講することで、書庫に入れるようになる（授業翌週から）。

10 研究テーマについて面談

各自の研究テーマについての面談を個別におこないます。11月中の適当な時間（30分程度）で予定をそれぞれ決めてください。